

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
 担当課長名：東川 直正

事業の概要

事業名	一般国道42号（近畿自動車道紀勢線） 紀宝熊野道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：三重県熊野市久生屋町 至：三重県南牟婁郡紀宝町神内	延長	15.6km		
事業概要	一般国道42号は、静岡県浜松市を起点とし、紀伊半島の沿岸部を通過して和歌山県和歌山市に至る延長約520kmの主要幹線道路である。 紀宝熊野道路は、一般国道42号のバイパスとして、三重県熊野市久生屋町から三重県南牟婁郡紀宝町神内に至る延長15.6kmの自動車専用道路である。				
事業の目的、必要性	紀宝熊野道路は、熊野道路（事業中）や新宮紀宝道路（事業中）と連続し、紀伊半島沿岸部における愛知県から三重県東紀州地域を結ぶ道路ネットワークの一部を形成。 救急医療活動の支援、地域産業支援に寄与するほか、南海トラフ地震等発生時の津波浸水による孤立リスクの解消に寄与するものである。				
全体事業費	約850億円	計画交通量	約11,500台/日		
事業概要図					

**関係する地方公共団体等の意見**  
 【三重県知事】  
 「一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）紀宝熊野道路」を予算化することについて同意します。  
 県としては、現在沿線の自治体が進めている地籍調査に最大限協力するとともに、沿線自治体と連携して円滑に事業を推進させるよう用地取得や地元調整などの事業実施環境の整備に主体的に取り組みます。  
 また、津波被災時にも御浜ICから災害拠点病院である紀南病院にアクセス可能な道路整備に対して御浜町と連携しつつ支援を実施するとともに、観光振興にも寄与する太平洋岸自転車道整備への協力を行ってまいりますので「一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）紀宝熊野道路」の新規事業化と早期全線開通が図られるよう特段のご配慮をお願いします。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
 ・新規事業化については妥当である。

**事業採択の前提条件**  
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている  
 ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H25.4）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.4 (0.9)	総費用 3,445億円 (事業費:3,165億円 維持管理費:279億円)	総便益 4,672億円 (走行時間短縮便益:4,204億円 走行経費減少便益:357億円 交通事故減少便益:111億円)	基準年 平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=1.7 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.2 (事業費 +10%)	B/C=1.5 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 +20%)	B/C=1.5 (事業期間 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	—	・注目すべき影響はない	
		事故対策	—	・注目すべき影響はない	
		歩行空間	—	・注目すべき影響はない	
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第三次救急医療施設への搬送時間短縮 〔紀南病院～伊勢赤十字病院間〕 現況 約103分 ⇒ 整備後 約90分	
		地域経済	○	・紀勢自動車道、熊野尾鷲道路の開通により「南紀みかん」のタイへの出荷量が増加 ・対象区間の整備により、輸送時間の短縮、更に輸送時に揺れによる荷痛みの減少が期待	
災害		◎	・津波浸水区域を回避することを基本とし、最大津波高を考慮した十分な高さを確保することにより、災害時における安全性・信頼性確保		
環境		—	・注目すべき影響はない		
	地域社会	◎	・対象区間の整備により、津波浸水時にも機能する高速道路ネットワークが御浜町まで接続され、南北のアクセス経路が確保可能となり、御浜町および紀宝町の孤立リスクが減少 〔御浜町・紀宝町(人口2.0万人)における災害時の孤立人口〕 現況 7.4千人(37%) ⇒ 整備後 0人(0%)		
事業実施環境	○	・計画段階評価手続き完了（H25.4） ・三重県知事や紀勢自動車道建設促進三重県期成同盟会より早期事業化を要望			

採択の理由

費用便益費が1.4と便益が費用を上回っているとともに、事業採択の前提条件が確認できる。  
 また、南海トラフ地震等の災害時における安全性・信頼性の確保、第三次救急医療施設への速達性の向上等、事業の必要性・効果は高いと判断できる。  
 以上により、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの  
 ※B/Cの上段の値は和歌山JCT～勢和多気JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果

## 新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

### 事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
<p>紀宝熊野道路は、熊野道路（事業中）や新宮紀宝道路（事業中）と連続し、三重県東紀州地域の道路ネットワークが強化され、救急医療活動の支援、地域産業支援に寄与するほか、南海トラフ地震発生時の津波浸水による孤立リスクの解消に寄与するものである。</p>		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道42号が唯一の幹線道路であり、南海トラフ地震発生時には、津波により国道42号の約8割が浸水し、通行不能となると予測</li> <li>・国道42号沿線集落の約7.4千人の人々の災害時の救命・救急活動が課題</li> <li>・国道42号の当該区間では、台風による越波や落石により長時間の通行規制が発生 〔H23 台風12号：33時間〕 〔H30 台風24号：16時間〕</li> </ul>	※紀伊半島地域振興計画（三重県地域）（H28.2） ○交通通信の確保 ・南海トラフ地震に伴う津波により、地域の重要な幹線道路である一般国道42号が浸水することが危惧され、とりわけ熊野大泊から新宮間において、一般国道42号の約7割の浸水が想定されていることから、早期に代替性を確保する道路ネットワークの形成が必要。近畿自動車道紀勢線について、東紀州地域のさらなる安全・安心の向上や活性化をめざし、事業化区間の整備促進を図るとともに、未事業化区間の早期事業化を国等に一層強く働きかけるなど、地域の悲願である紀伊半島のミッシングリンク解消に向けた取組を進めます。
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県東紀州地域には第三次救急医療施設が存在しないため、重篤患者は約120km離れた伊勢赤十字病院への搬送が必要</li> </ul>	※紀伊半島地域振興計画（三重県地域）（H28.2） ○医療の確保等 ・三重県ドクターヘリだけでなく和歌山県ドクターヘリを活用するなど、他地域、他県との広域的な連携を進めることにより医療資源の効率的な活用を図るとともに、当地域における地域医療構想をもとに大学病院と中核的病院、へき地診療所と地域の中核的病院、保健所や福祉事務所と医療機関など関係機関間の連携を図ることで、地域住民に対する包括的な保健・医療を提供する体制の整備を進めます。
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南紀みかん」をタイに輸出しているが、名古屋港までの輸送時間短縮や輸送コスト縮減に課題</li> </ul>	※紀伊半島地域振興計画（三重県地域）（H28.2） ○産業の振興及び観光の開発 ・東紀州地域においては、かんきつ産地の強化に向け、輸出の拡大、高品質生産技術の導入及び新品種による新たなブランドづくりに取り組むとともに、地域の風土を生かした特産物など地域特産物の生産振興及び観光業など多様な分野との連携による販路拡大を進めます。
その他		

事業の有効性									
<p>・当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価がDランク→Bランクに改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>・また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、救急医療活動の支援、速達性向上による地域産業活性化への貢献など、有効性の高い事業と評価できる。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	熊野市	紀宝町	55 (6)	0.97 [C] 〔1.00〕 [D]	0.72 [C] 〔0.18〕 [B]	▲1632.07 (▲83.90)	0.21 (0.27)	0.28 (0.83)	◎

事業の効率性
計画段階評価手続き完了（H25.4）

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は和歌山JCT～勢和多気JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果